

# 一般社団法人戸田市薬剤師会 議事録

記録日	H30.9.11
記録者	芹澤

日時	H30.9.11 13:00~15:00	出席者	染川、野口、武長、相良、佐貫、成塚、芹澤、宮下
場所	戸田市文化会館 302 会議室		

## 議 題

1. 会長報告
2. 副会長・委員会報告
3. 各理事・委員会報告
4. 危機管理委員会

## 会議内容

### 1. 染川会長より

- 8/7 菅原市長と面談。薬剤師会の市民向けの活動について説明した。
- 次回理事会で会の細則について読み合わせをして内容を詰めていく。また来年、役員の改選期で選挙があるので、選挙の運営についてしっかり細則で規定していく。

### 2. 副会長・委員会報告 武長副会長より

- プール壁面の強度不足で2校がプールの授業ができなかった。10月~11月はダニ、照度の検査。

### 野口副会長より

- 8/21 に芹澤理事と中央包括支援センターを訪れ、薬剤師会のスタンスを説明、他業種連携において意見交換を行った。その結果、地域ケア会議の圏域会議について薬剤師会として協力することとなった。11/13のミニケアマネ会議にも出席することとなった。

### <在宅委員会報告>

- アンケート結果を集計し、結果報告。
- 配布用資材作成中。関係各所においてもらうものであり、クオリティが求められるため、文書は自分たちで作成、デザインは外注する。
- 在宅応需リストは以前からアナウンスしているように県薬の在宅積極応需リストを用いる。

### <保険委員会>

- 欠席の伊藤理事にかわって説明。今までは戸田中央 HP の鈴木薬局長と野口副会長、伊藤保険

委員長で薬薬連携について意見を交わしてきたが、今後薬剤師会も保険委員をいれ、病院側もポストにつかれている方々に来てもらい懇親会形式でざっくばらんに意見交換を行うこととなった。

### 3. 各理事委員会報告

#### 相良会計より

- 個人会員で鯨井先生が入会。8月入会なので4000円で請求する。
- 薬剤師会の会員同士の親睦会（反省会の意味合いがつかよいかもかもしれない）の補助について、ルールを作って拠出金額を決めたほうがいいのか、各委員長（理事）の裁量に任せたほうがいいのか、議論。意味のあるお金の使い方であればよいとの見解でまとまったが、各委員長（理事）の采配についてしっかり責任を持たなければいけない事を共通認識として持つことができた。

#### 佐貫薬学生実務実習委員長より

- 2期はスズケンの物流、イオン北戸田店でのセルフメディケーション実習も行えた。
- H31年度の学生実習の割り振りがきた。エリア長が振り分け。ただし、一部転勤により学生の受け入れを予定数より減らす会員薬局があり、佐貫理事と成塚理事に振り替えてもらう事でなんとか戸田地区内で収まった。このように戸田地区での変更は戸田地区内で調整しないといけないルールになっており、今後このようなことが起きないように会員薬局は注意して頂く必要があり、それを佐貫理事がチェックすることになった。

#### 成塚広報委員長より

- HPの反響メール少しずつ来ている。
- 今年も健康福祉祭りでブラウンバック配布予定であるが、去年は名前やロゴを入れずに渡した。継続的に取り組むテーマであるし、「戸田市薬剤師会」とコバトンのロゴを入れて発注する。色は少し目立ってわかりやすいように明るい緑色となった。1000発注。
- ブラウンバックの使い方が分からない方が多いので、使い方のビラを作って発注してはどうか。全会一致で承認。2000部発注。
- 会員薬局の地図はHPの業者で安価でデザインしてくれるとの事。デザインの著作権をもって薬剤師会で刷るのかはいかがか？これも全会一致で承認。

#### 芹澤学術研修相談役より

- 9/10 戸田中央総合HP 心臓血管センター内科 湯原幹夫先生の講演は47名の参加。会員にもおおむね好評だった。アンケートを合わせて実施したが、満足度は高く次回以降も今回と同様の手順を踏んで話を進めてくこととした（こちらのニーズを前もってDr.にお知らせしていたため、ポイントを絞って話して頂けた）。

#### <戸田健康福祉の杜祭りプロジェクト>

- 9/7にプロジェクト会議。去年の路線の踏襲を確認。ミニ講演会も4本企画した。

危機管理委員会<行政側より危機管理防災課；ホソノ様、ヒラノ様>

<薬剤師会側；野口委員長、染川会長、武長副会長、佐貫理事、成塚理事、  
芹澤理事>

14：30～16：00 理事会と同じ302会議室にて開催

- ヒラノ様より「戸田市地域防災計画 災害応急対策計画編（震災対策編）」の第11節 救急救助・医療救護計画の部分をコピー、配布していただいた。
- 第4 医療救護の「3. 医薬品医療用資機（器）材等の確保」の項目のなかに、「救護所では、市備蓄の医薬品、医療用資機（器）材及び医師が持参する医薬品を使用する。不足する場合、医療班は、戸田市薬剤師会、医薬品業者に要請する。市では調達が困難な時は県を通じて医薬品業者、他医療機関等に要請する。」とあり、ここに薬剤師会が出てくる。なお、災害時、戸田市において「戸田市災害対策本部」が設置され、その中に医療班が立ち上がることになっている。
- 野口危機管理委員長より、協定書の文言の中で「～速やかに協力するものとする。」なる部分があり、薬剤師側に選択権がなく協力が義務であるかのように受け取れることについて行政側に質問したが、「～するものとする」はいわゆるお役所言葉でかなり弱い表現とのこと。薬剤師会の会員も被災者である可能性が高く、自らの事業を復興できなければ協力することができないのでは、と考えていた理事にとってはこちら側に選択権があり、少し安心する内容であった。
- まだこれからお互いのできることを積み上げていく作業を行っていくことで双方合意。

## 決定事項

- 10/7 戸田市健康福祉祭り
- 戸田薬薬連携の拡大意見交換かい
- ブラウンバックと説明用ビラの作成
- 会員薬局の地図のデザイン外注

## 検討事項

- 会営薬局開設に向けて行政との継続交渉。
- 学校薬剤師委員会組織と規約、新人の発掘育成。
- 戸田中央総合病院薬剤科との薬薬連携の深化
- 蕨市薬剤師会との連携。
- 戸田市行政との連携。市民に見える活動。危機管理の継続協議
- 実習生の参加できる薬剤師会事業
- デットストックの会員薬局間の取引